

第20回自治体国際交流表彰（総務大臣賞 2026年）に係る 審査委員会全体講評

昨今、国際交流を取り巻く環境は一層の広がりや深化を見せており、対面・オンライン双方の特性を活かした多様な取組が各地で展開されています。教育、文化、スポーツ、経済など幅広い分野において、創意工夫あふれる国際交流活動を継続・発展させてこられた全国各地の自治体等の関係者の皆様に、まずは深く敬意を表します。

また、本事業に対し全国各地から数多くの優れた取組をご応募いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

今回ご応募いただいた取組は、姉妹自治体交流を基盤とするものから、経済、環境、教育など政策課題に即したもので幅広く展開されており、その一つひとつが、参画された方々の視野を広げ、相互理解を深める貴重な機会となると同時に、地域の持続的な発展を支える力ともなっているものと拝察いたします。

審査委員会では、審査基準6項目（先進性、独自性、継続性、活発性、協同性・連携性、効果）に着目し審査を行いました。

本委員会では、これらの項目から総合的に判断し、陸前高田市、茅ヶ崎市及び湯河原町の3団体を推薦団体と決定しましたが、この3団体のほかにも、例えば下記のような取組を行っている団体があり、今後の発展や成果を期待しております。

- ・ 戦後の引揚という歴史的背景を契機とした交流を、五輪ホストタウン交流や博物館交流にまで発展させている団体
- ・ 長年にわたり人材・青少年・経済・観光・環境等幅広い分野での交流を展開し、メディアや民間企業にも交流が広がっている団体
- ・ 3年1サイクルで、内容の充実したホームステイを通じた青少年交流を実施している団体
- ・ 学校交流やホームステイなど、小学校間の相互派遣交流を継続的に実施している団体
- ・ 文化施設を含む三者連携により、アーティストを通じた芸術交流を実施している団体
- ・ ボランティアから成る運営委員を主体として、中学生から大人までも含む市民派遣団の相互派遣交流を長年にわたり実施している団体

最後に、地域の国際化に取り組んでおられる自治体や国際交流協会関係者等の皆様の多大なる御尽力に改めて感謝申し上げますとともに、本表彰事業が今後の国際交流のさらなる進展に寄与することを祈念し、第20回自治体国際交流表彰（総務大臣賞 2026年）の全体講評といたします。

令和8年3月
自治体国際交流表彰審査委員会